

清流に感謝“清流に集う”



朝倉市 たかき清流館 館長 **田野 康行**

「若葉の風 清く佐田の^{ながれ}溪流

朝に夕に みんなの姿映してくれる」

これは平成13年に閉校となった、福岡県甘木（現朝倉）市立佐田小学校の校歌の一節であります。その木造校舎を永く存続させたいとの、地元住民の強い要望により整備され「朝倉市たかき清流館」として生まれ変わりました。

所在は、九州の大河である筑後川水系佐田川に立地する、寺内ダムの上流約6kmにあります。文字通り校舎と並行するように、清流佐田川が流れ、山奥深い森林の香りに包まれた、まさにふるさとの原風景が今もここには在ります。当地域には、前述の寺内ダムと江川ダムがあり、更に現在当館に程近い焼き物の里・小石原に小石原川ダムが建設中であり、水資源に恵まれない福岡都市圏の貴重な水源地の一つでもあります。

当館は、宿泊、休憩や合宿、研修等の施設利用、各種体験教室、食事処を運営していますが、中でも清流をそのまま利用するヤマメの掴み取り体験、水鉄砲を作ったの川遊び、更に美味しい水で流すソーメン流し等、水源地ならではの体験が人気を集めています。

食事はバーベキューが主体で、具材持ち込みも可としており、掴み取ったヤマメの塩焼きは、殆どの利用者にとっては初体験の味覚となっています。更

に、今年度から寺内ダムの協力を得て、「寺内ダムカレー」を新メニューとして発売を開始しました。地元産鹿肉を使ったメンチカツが好評で口コミ等で浸透しつつある中、ダム見学団体様から「食事は『寺内ダムカレー』を。」との大口注文も頂いている状況であり、今後もダム見学コースの中にカレーが指名されるべく更に改善を図って参ります。

当館の利用者の約半数は朝倉市在住者が占めますが、福岡都市圏広域行政事業組合様より、福岡都市圏17市町在住者向けに水源地研修施設利用者に利用料の一部を助成する制度の対象施設の一つに指定されております。都市圏と地元学童との交流の場としての提供や、単に施設利用料に限らず、体験教室料、食事代にも適用され、最大限活用したスポーツ少年団合宿、自治区児童育成会のデイキャンプ等が多く、地元利用者数に迫る状況にあります。

このように、当館は「水」との関わりなしには存在しない施設であることを常に念頭に置き、利用者には普段何事もなく、ごく当たり前に使っている水を、ここ水源地で、改めて「水」の大切さを感じて頂けたら幸甚に思います。

清流に感謝しつつ、多くの方々に、この清流に足を運んで頂けるよう、ここ中山間地より発信し続けて参ります。



小学校の廃校を利用した「たかき清流館」



大きな鹿肉メンチカツが特徴の「寺内ダムカレー」